



編集・発行  
事務局

金蘭会東京支部 (大阪府立大手前高等学校同窓会)  
設案・阪本法律事務所内  
〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-2 みつわビル3F  
<http://www.kinran.tokyo/>

## 一ツ橋の如水会館で

### 水戸徳川家当主を迎えて

2017年7月9日(日) 如水会館スターホールにて、第93回金蘭会東京支部総会が開催され、186名の同窓生が集いました。

昭和61年卒が当番幹事となり、その人脈から水戸徳川家15代当主徳川斉正様を迎えて「水戸徳川家を貫くものゝ明治維新150年に思う」と題した講演を聴くことができました。歴代水戸藩主の功績や教訓をユーモアあふれる話術で話され、皆釘付けとなりました。当番幹事の気の利いたアイディアで、テーブル名は江戸時代以降平成までの年号が並びました。

また、当番幹事と同期の中田厚仁さん(平成5年カンボジアにて国連ボランティア活動中に殉職)の人柄と業績についての紹介もありました。中田さんの生き方からさまざまなことを考えさせられると同時に、存命なら彼自身からこの場で話を伺えたのという非常に残念な思いが皆の胸に去来しました。

今年も新卒生3名が参加され、壇上で近況抱負なども伺えました。次回当番幹事の62年卒生も多数

参加されていましたので、来年も今年同様盛会となることまちがいなし。乞うご期待！



右から柴浩司校長先生、新卒生3名、



カンボジアでボランティア活動中の中田厚仁さん

#### 当番幹事を終えて

川端 将宏(昭和61年卒)

「総会の成功を祝して乾杯！」総会直後の打ち上げでの、当番幹事、サブ幹事の笑顔を今でも鮮明に思い出します。

一年前から始まった大任は本当に多くの人に助けられて全うできたものでした。卒業後同級生でただ一人総会に参加し続けた河野さんの呼びかけは、当番幹事25名、サブ幹事11名の参加に結実しました。

能動的に幹事の任をこなす当日の働きはさすが大手前生。取りまとめ役の私が煩わされることは何もありませんでした。会場側の不手際で校長先生にご迷惑をおかけした責任は私にあります。中田君のイベントをきっかけに彼の大学や中学時代の友人たちとも繋がり何か新しいことが始まりそうな予感もあります。

一年に亘りご指導頂いた役員・幹事の皆様をはじめ全ての人に感謝の言葉を贈ります。ありがとうございました。



徳川様を囲んで当番幹事学年のみなさん

#### あれから30年

河野 恭子(昭和61年卒)

初めて総会に参加したのは1987年大学一年の頃でした。毎回来しみてしたが年が経つにつれ、先輩方の趣向を凝らしたイベントに焦りを感じていました。2012年まで20年以上同級生の参加がなかったからです。

SNSの普及により徐々に再会できるようになりS61年卒チームが始動しました。今回の講演は幅広い年代の方々に興味を持って頂ける黄門様でおなじみの水戸徳川家15代当主、徳川慶喜公の末裔・徳川斉正様。今に生きる殿様に教科書にはない話をして頂くことできつと楽しんで頂けるという想い。私達の同級生である中田君の事を少しでも知って頂きたいという想い。そんなS61年卒の想いが届いていれば幸いです。

昨年は同級生の温かさ、大手前高校の素晴らしさを改めて感じられた一年でした。皆様のご協力で沢山の同窓生にご参加頂き無事総会を終えることが出来ました。心より感謝申し上げます。

祝

石井遊佳さん(昭和57年卒)が『百年泥』で第158回芥川賞を受賞されました。

1977年に『僕って何』で芥川賞を受賞された三田誠広さん(昭和42年卒)以来の快挙です。

## ソフトウェア開発に見るダイバーシティ

ロケットソフトウェアジャパン(株)  
シニア・ソフトウェア・エンジニア

森 茂子さん

(昭和 56 年卒 旧姓・西原)

す。家庭では夫と協力しながら二人の娘を育て、今年次女が成人式を迎えました。

IBM勤務中に社内での女性技術者の活躍推進活動メンバーになり、ワークライフバランス経験談と企業のダイバーシティ施策の講演や寄稿を社内外で行いました。このご縁で情報処理推進機構や日本女性技術者フォーラム、世界工学会議の委員となり、リケジョの活躍推進に取り組みました。一朝一夕に進歩がある課題ではありませんが、女性技術者の活躍に光をあて、微力ながら若手女性技術者の背中を少し押すことができたのでは、と思います。

女性活躍推進はダイバーシティ(多様性)の大きな課題ですが、それだけではなく、性別・人種・年齢・宗教を問わず多様な価値観を持つ人々によって、新たな価値、競争力を生み出すことを目指します。私が現在勤務しているロケット社で、多様性の価

値を改めて感じる機会がありました。ロケットでは年に一度、社内の技術者がアメリカ本社に集まり、一週間に渡りハッカソンを開催しています。ハッカソンとは、技術者がチームを組み数日間集中してプログラミングを行ない成果を競うソフトウェア開発コンテストです。アイデアと技術力が勝負で、性別も人種も年齢も無関係。昨年のロケットのハッカソンでは、10か国以上から130名を超す技術者が集合。共通語は英語ですが、ロシア語、中国語、日本語、ドイツ語、様々な言語が飛び交う熱気あふれる会場から多様なアイデア、新しい物が生み出されていく。まさに多様性の真価を見たと思います。国際競争に多様性は必須です。

いつか日本でもこのような光景は当たり前になるでしょうし、実はもう始まっているのだと思います。

## 走る素粒子物理学者



素粒子物理学者

三原 智さん

(昭和 61 年卒)

後は素粒子物理の研究者として幾つかの実験を行ってきました。近年の素粒子物理の実験は、宇宙の歴史(の特に初期の状態)がどのようなものであったのかを解明しようとする試みで、準備期間を含めると終了までに10年以上の歳月を要するものも少なくありません。一つの実験に100人以上の世界各国の研究者が加わり、極めて精密な実験装置を自分たちの手で作り上げ、数年に亘るデータ収集を行って、ようやく結果が得られるというものです。

フルマラソンを超える超長距離のランニングが、実はこの手法と似通うところが多いのです。100kmの距離を走るウルトラマラソンでは、当然のことながらまず身体の準備が必要です。人間の身体構造を理解して、自分の身体の見極め必要なトレーニングを時間をかけて行います。

レースが始まれば、今度は身体各部分に問題ないことをモニターしながら、的確な時期にエネルギー

ギーを補給して最後まで走り抜くのです。これだけの準備をしてゴールに到達した時の喜びは、まさに実験データが得られて未知の素粒子現象を解明した時の喜びに近いものがあるのです。

おそらくこの類似点が、多くの研究者がランニングを日常的に行っている原因なのではないかと感じています。特に、走っている間は走ることに集中するので、走り終わった後には頭の中がスッキリして、まるで座禅を終えた時のような感覚にひたれることがあります。研究を続ける上でのちよとしたアイデアが浮かんだり、なかなか理解できなかった論文の内容がすつと理解できるような事も少なくありません。

研究者は生涯を通じて研究を続ける人が多くいます。知的好奇心は年齢に関係なく溢れ出てくるものなのでしょう。ランニングも同様、私にとってはいくつになっても続けていきたい生活の一部となっています。

ランニングと科学研究には多くの類似点があります。特に自然現象を実験室で再現しそこに隠れた自然法則を見極める実験的な研究は、超長距離のランニングにその手法もそれを続けていくメンタリティも共通した所がたくさんあります。

私は大学院で素粒子物理の実験研究を学び、その

京都大学理学部卒業後、東京大学で博士号取得。その後、欧州、日本での国際共同実験で素粒子物理の研究を推進。ランニングは40歳を超えてから「健康のため」と始めたが今や生活の一部。年間にフルマラソン3回、ウルトラマラソン2回、夏場は長距離トレイルレースに参加。本業の研究で国内外へ赴く際にもスーツケースにはいつもランニングシューズ。現在、茨城県つくば市高エネルギー加速器研究機構教授、東京大学客員教授

電気通信大学 電気通信学部 計算機科学科卒。  
1985年～日本アイ・ビー・エム(株)、2015年～ロケットソフトウェア・ジャパン(株)勤務、2010年度(独)情報処理推進機構・女性技術者キャリア改革検討委員、2010～2014年 日本女性技術者フォーラム運営委員、世界工学会議 WECC2015 Women in Engineeringプログラム委員。

## つるみ子ども日本語教室

## 「ともだち」

牛島(豊竹)早苗(昭和56年卒)

「おはようございます!」とS君の声。今日も一番乗りです。早速、ホワイトボードに大きく「ともだち」と書いてくれます。「今日は何の絵がいい?もうすぐ子どもの日だから鯉のぼりにする?」とスタッフが尋ねます。後からやって来た子ども達も集まってきました。これが教室開始前の恒例になっています。

ここは横浜市にある鶴見国際交流ラウンジ。私は外国につながる子どもが少しでも早く学校に馴染めるように初期日本語や学習を教えるボランティアをしています。

外国でお世話になった御恩返しにと大人への日本語ボランティアを始めたのが二十年前。その時に出会った方が結婚、出産、子育てとライフステージの変化と共に私のボランティアの在り様も変わってきました。大人と比べ、子どもへの支援はまだまだ足りないのが現状。今は子ども達の支援に一直線です。



「ともだち」

## 神楽坂まちづくりNPOに参加して

藤野 貴之(昭和62年卒)

私が初めて神楽坂を訪れたのは大学に入学した1989年でした。しかし、当時の神楽坂は花柳界も表通りの商店街も衰退し人もまばらでした。

約10年後に私が都市計画の仕事を始め、神楽坂近くに帰ってきた時に見た光景は、多くの人で賑わっている神楽坂でした。

どうしたらあの商店街がこのように復活するのか興味を持った私は、「NPO法人粋なまちづくり倶楽部」のセミナーに参加し始め、その後、声をかけていただきスタッフとして参加して今に至ります。

私も「何か楽しそう」という雰囲気惹きつけられた一人ですが、新規住民の方のボランティア説明会への参加者も後を絶たず、現在、300人を超えている登録ボランティアが在籍しています。

是非一度、「神楽坂祭り」や「神楽坂まち舞台」などにお越しください。そして、「何か楽しそう」と感じられた方はNPOスタッフに声を掛けてみてください。



「神楽坂まち舞台 大江戸めぐり」

## 社会貢献が仕事に

北後(加藤)真智子(昭和52年卒)

30年近く前、夫の転勤で東京に引越し、専業主婦になりました。社宅暮らしでママ友もいて、それなりに楽しい毎日でしたが、何か物足りなさも感じていました。そんなとき、加入した生協での出会いかから地域の障がい者支援、子育て支援などのボランティアに関わるようになり、日々が充実するようになりました。

## 大手前高校東京研修

佐藤(渡邊)さと子(昭和49年卒)

母校がスーパースサイエンスハイスクールであることは良く知られていることですが、その活動の一環に東京研修があります。

当番幹事の古園さおりさん(昭和61年卒)が東京大学生物生産工学研究センター特任准教授として東京研修で「微生物のお話」を講演されることになったので、母校の安永晃教先生のご尽力もあり、10月5日、役員と当番幹事の数名が講演会場で宿泊所でもある機山館を訪問しました。

講演に先立ち柴浩司校長先生に時間を頂き、今回の研修についてお話を伺いました。

一年生43名、二泊三日の日程で、つくば市のJAXAをはじめ各大学での講義・見学、学生との交流、国会見学と充実した内容です。

世田谷区に新築した自宅に月に1回開催していた子育てサロンは常設のおでかけひろばとして区の委託事業につながりました。有償ボランティアのヘルパーもしていました。今は居宅介護支援の中間支援組織のNPOACTでスタッフとして働いています。



NPOACT

も謙虚な気持ちで誰かに喜んでもらえるようにできる限りを尽くしていきたいと思っています。

東京研修の他にも、京大研修・阪大研修・海外研修があり、生徒はどれか一つの研修には必ず参加します。単に進学先を見ることができるとどまらず、各方面で活躍している諸先輩のお話を伺ったり、関東地区でないと経験できないこともあるので、今後の進路の選択を広げる意味もあるそうです。

大手前高校では高校生活3年間の前半の一年半はできるだけいろいろな経験をし、後半の一年半は進学に向けての準備をするという考え方をしています。文系・理系という分け方ではなく、視野を広げ、経験を積んで、単に受験だけの高校生活にはして欲しくないということでした。

講演後、当番幹事の川端将宏さんがカンボジアでの国連ボランティア活動中に亡くなった同級生、中田厚仁さんを紹介されました。

1日目の研修を終え、夜7時半からの講演でしたが、しっかりと耳を傾けている後輩たちを頼もしく思いました。



講演する古園さん



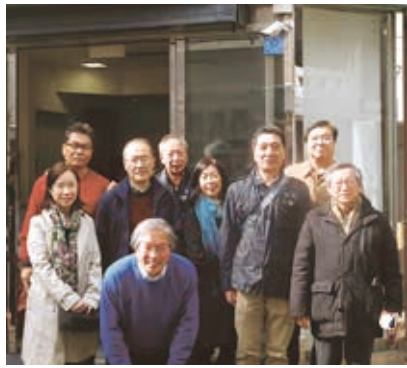
中村信男副支部長から金蘭会東京支部の紹介

## 学年だより

## 観劇ツアー

竹村(田中) 泉(昭和48年卒)

この数年、昭和48年卒(四つ葉会)にとって、年に数回、同期の舞台を観るツアーが恒例になっています。わざわざ大阪から駆け付ける仲間もいます。



劇団でん組主宰の富田求さんは作・演出で舞台を作り、劇団東俳の研究生の青木芳子さんは俳優として舞台を踏みます。私たち同期も一緒にハラハラドキドキしながらも、劇に引き込まれていきます。

青木(青木) 芳子(昭和48年卒)

3年前の初舞台、そでで出番を待ちながら「あの光の中に出ていったら気を失うのではないか」と恐れる程緊張し興奮していたことは忘れられません。

今63歳の私が、芝居への憧れだけで劇団東俳のオーディションを受けたのは60歳目前のことでした。劇団のレッスンは私にとってどれも新鮮で、充実した日々でした。

初舞台のあの日、客席に四つ葉会の友人達がいてくれて、どんなに心強かったか。その後もいつも支えて応援して下さい。私が芝居を続けられる原動力です。次もまた観たいと思っていただけのように、これからも頑張ります。

富田 求(昭和48年卒)

30年前のテレビの制作現場は、2、3日の徹夜は当たり前前、半年で休日が一日という今では考えられないほど過酷でした。

それでも管理職になると、現場への思い断ち難く、定年延長を断って退職し、演劇という未知の世界に飛び込み、作・演出で新作を四本公演しました。

現実とは想像以上に厳しく、心労で髪の毛が大量に抜け、毎回100万円以上の赤字を退職金で穴埋めしながら、この歳になって金で苦勞を買うのか、と自嘲する日々が続きました。

た。そんな時、「またやってね」という同窓生の励ましに、心に響きました。金で買えない「心の宝」もある。今の実感です。

「結婚する女」(藤田弓子主演)  
本番直前の「気合入れ」  
藤田弓子の左隣が富田さん



## 秋の遠足

中山 政治(昭和56年卒)

7月の金蘭会東京支部総会で講演して頂いたご縁で、徳川斉正様が理事長をされている水戸の徳川ミュージアムに行こうということになり、平成29年11月3日、関東在住の同期9名で遠足に行きました。

朝、品川発のスーパーひたちワイワイガヤガヤの列車旅でアツという間に水戸駅に到着、偕楽園周辺で秋晴れの中見事な紅葉を楽しみ、ミュージアムでは徳川様自らの案内で水戸の町の成り立ち、代々の藩主、展示品の説明をしていただきました。徳川家所蔵の多くの名刀が関東大震災の火災で真っ黒に炭化してしまったまま展示されていたことが印象的でした。

現在、名刀の写しを作製する「刀剣プロジェクト」が行われていて、完成したものは見事に輝いています。

た。おいしい屋敷の後、儒教に基づいた水戸徳川家の墓所と水戸光圀公が晩年を過ごされた西山御殿に移動し、徳川様の案内で普段は立ち入りできない家屋の中まで見学できました。水戸のご老公が書物を読んだ書院に実際に座って、丸窓から庭園の風情を味わいました。



西山御殿にて

最後となりましたが、徳川様ご夫妻の案内とS61年卒河野恭子さんの段取りのおかげで、非常に有意義で楽しい一日を過ごすことができました。

## Information

## ●仲間募集…「金蘭会サロン」

金蘭会サロンは、学年や年代の違いを越えて卒業生同士が交流できるディナー会です。数ヶ月に1度、金曜日の夜に開催しており、20代から70代まで幅広い年代の方が集まります。大手前高校の卒業生はどなたでも参加できますので、お気軽にご連絡ください。

連絡先：高木 雅(平成21年卒) TEL：080-5324-5406  
E-mail：rironriron@gmail.com

## ●仲間募集…「二子玉会(にこたまかい)」

昨年の第13回二子玉会(ランチ会)は、10月1日(日)に開催され、初参加5名を含む23名が集まりました。学年の枠を超えて、出身中学校、住所、きょうだい、趣味、スポーツなど初対面でも不思議と縁が繋がります。今年も10月の土日に二子玉川で開催予定です。金蘭会に関係する方なら、どなたでも参加OKです。

連絡先：竹村 泉(昭和48年卒)  
TEL：080-5448-7848  
E-mail：426izumi-t@e08.itscom.net



## ●仲間募集…「桐蹴会(サッカー部OB会) 関東支部」

活動3年目に入りました。熟年サッカーの新鮮さと世代を超えたチームワークを、是非とも体験なさいませんか？

連絡先：関東支部幹事長 白石(昭和55年卒)

TEL：080-2346-7822

E-mail：tousanyoshi426@ybb.ne.jp



平成29年4月、養和会調布グラウンドでの関東OB戦

## ●支部会計報告(平成28年度)(平成28年1月1日～12月31日)

| 収入の部  | 金額(円)     | 支出の部     | 金額(円)     |
|-------|-----------|----------|-----------|
| 前年度繰越 | 6,126,765 | 総会補助費    | 201,325   |
| 支部会費  | 163,000   | 支部運営費    | 626,144   |
| (内訳)  |           | (内訳)     |           |
| 終身会費分 | 0         | 会議費      | 10,159    |
| 年会費分  | 163,000   | 事務所使用料   | 60,000    |
|       |           | 会報印刷代    | 14,345    |
|       |           | 会報発送代    | 441,614   |
| 雑収入   | 0         | HP製作・通信費 | 20,634    |
| 貯金利息  | 33,363    | 送金手数料    | 29,660    |
|       |           | 雑費       | 1,872     |
|       |           | 交通費      | 47,860    |
|       |           | 次期繰越金    | 5,495,659 |
| 合計    | 6,323,128 | 合計       | 6,323,128 |

## ●支部会費

年会費は1,000円です。総会案内に同封の年会費払込用紙でお支払いをお願いしています。詳しくは総会案内状に記載されています。なお、終身会費の払込については、現在お取り扱いしていません。

## ●金蘭会東京支部ホームページ

<http://www.kinran.tokyo/>

支部の最新情報をご覧になれます。メールアドレス登録もこちらからお願いします。

## 編集後記

今回からレイアウトを業者をお願いしました。14年もの長きにわたりボランティアで、同窓生ならではの温かくセンスある紙面をデザインして下さいました加藤(森) 啓子さん(昭和46年卒)に編集委員一同心から感謝申し上げます。